

追肥で花蕾肥大促す

田中 義弘



「カリフラワー」は、キャベツの仲間であブラナ科の1、2年生草本です。原産地は地中海東部沿岸とされ、花椰菜とも呼ばれています。その純白の大きな塊は蕾が集まったもので、ブロッコリーが突然変異し、その後品種改良により育成されました。

日本へは明治初期に導入され、消費が増えたのは昭和30年代以降です。生産されているカリフラワーの花蕾の色は白が中心ですが、最近はオレンジや紫、黄緑色の品種もみられます。店頭でも見かけるようになった緑色の「ロマネスコ」も同じ仲間です。味はブロッコリーに近く、食感のカリフラワーに近い面白い品種です。栄養的にもビタミンC、B1、B2を多く含みます。花蕾の形と淡泊な味をいかして、サラダ、シチュー、グラ

タンなどに利用されています。ここでは、夏まき秋冬どり栽培を紹介します。

生育適温は20℃前後、発芽適温は15～20℃で冷涼な気候を好みます。播種期は8月です。市販の育苗セルトレー（128穴）に育苗培土を詰め種子を1粒ずつまき、覆土は浅くします。たっぷりかん水して新聞紙で覆い、涼しい所で育苗します。発芽したら新聞紙を取り除きます。また、かん水を控えめにし、徒長を防ぎます。育苗期間は25日程度で本葉3枚程度になったら定植適期です。

排水のよいは場を選び、定植までに本ぼの準備をします。1平方メートルに堆肥3キ、苦土石灰120グラム、化学肥料100グラム（窒素、リン酸、カリが成分要素15%の場合）程度を施し、耕うんします。

栽植密度はうね幅80センチ、株間45センチ程度です。苗は定植1時間ほど前にかん水し、根鉢に水分を十分持たせておきます。定植後は、株元に十分にかん水し活着を促進します。晴天が続くときは、適宜かん水します。定植25日後と花蕾が見え始める頃に、中耕・培土をかねて追肥（化学肥料30グラム）します。また、花蕾が8センチ程度に肥大したら外葉をテープなどで結束し花蕾を包みます。

花蕾が12～15センチに肥大し、周辺部が盛り上がり表面に凸凹が無くなったところが収穫の適期です。収穫が遅れると花蕾にすき間が生じたり黄変するので、適期収穫に努めます。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室主任研究員）

カリフラワーの定植

定植後25日ごろと花蕾が見え始めるころに追肥を行い、土寄せする

